

水災害対策プランの目的・考え方

浸水被害が頻発している和田川・小潤井川・伝法沢川周辺を対象とし、行政機関による河川改修を進めることはもとより、住民一人ひとりを含むあらゆる関係者が、浸水被害の実態や原因、対策の目標についての認識を共有し、流域全員が協働して流域全体で行う持続可能な取り組むべき治水対策[流域治水]を示したものの。

「流域治水の「3つの対策」の方向性」

- ①氾濫をできるだけ防ぐための対策
- ②被害対象を減少させるための対策
- ③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

①-2 道路整備事業による調整池の設置



新たな道路の整備に伴い河川への流出量を調整するための貯留施設を整備中。（県・市）

①-5 小潤井川・伝法沢川・和田川の適切な維持管理



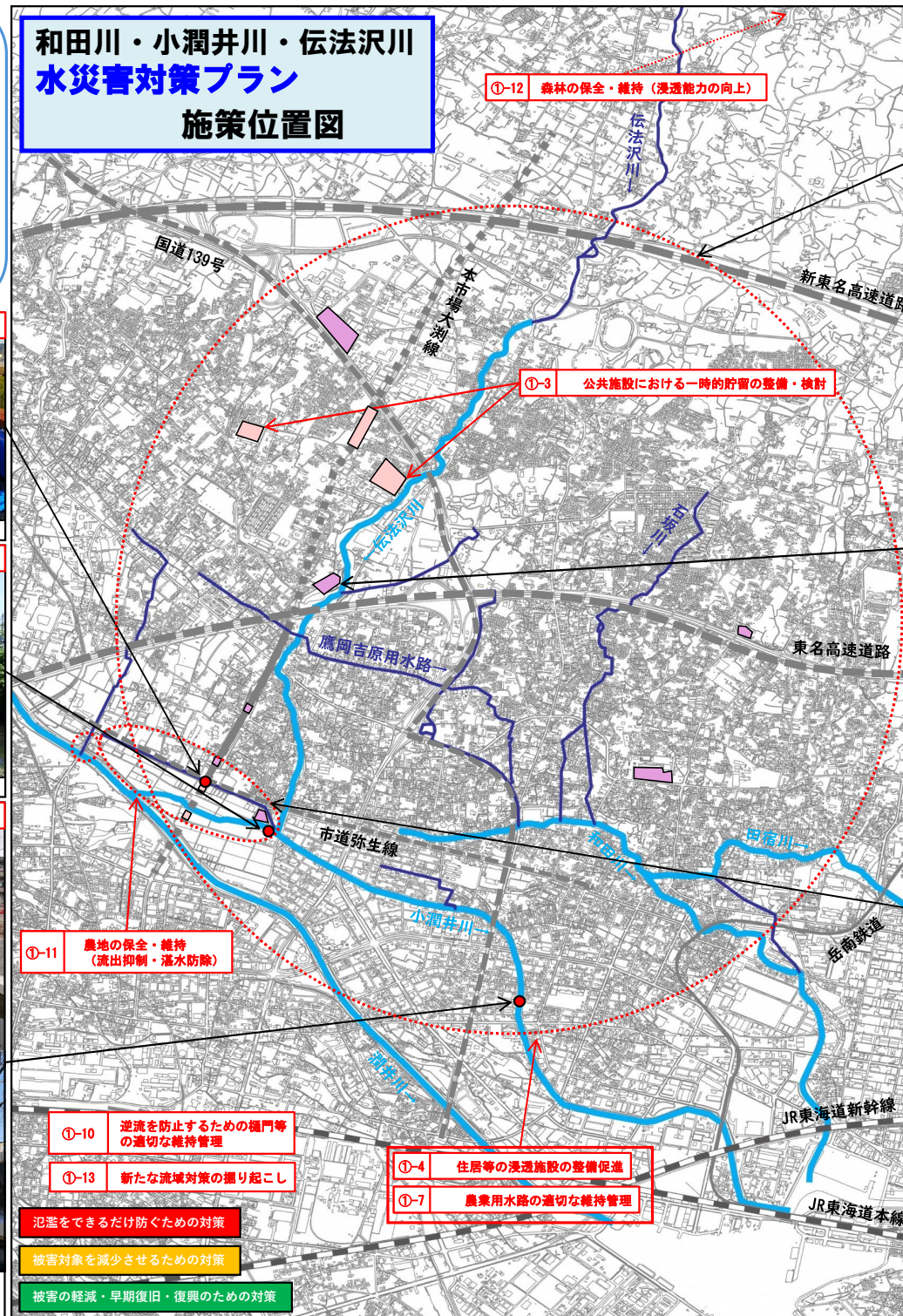
小潤井川の伝法沢川合流点や合流点上流で竹や樹木の伐採を実施。（県）

①-1 小潤井川の改修



河川整備計画に基づく改修（計画流量80m³/s）を国道139号津田橋より上流に向け実施しており、令和6年度は河川の断面を広げるために市道柳田橋の架け替え工事（下部工）を実施。令和7年度は引き続き柳田橋（上部工）の工事やその上流側の護岸工事を実施を予定。（県）

和田川・小潤井川・伝法沢川 水災害対策プラン 施策位置図



①-6 準用河川や普通河川等の適切な維持管理



地区要望や河川の巡視により、土砂堆積等が発生している河川において、浚渫・清掃・除草を実施。（市）

①-9 貯留施設の適切な維持管理



【伝法沢川・横堀川調整池における令和6年度の貯留実績】

月日	最高水位(m)	貯水量(m³)	貯水率(%)
(計画)	8.9	56,000	—
5月28日	1.23	3,900	7
6月2日	0.49	1,100	2
6月28日	2.57	9,900	17.7
8月31日	4.35	19,900	35.6
11月2日	5.78	29,600	52.8
11月27日	1.55	5,200	9.3

伝法沢川・横堀川調整池では、リモコン草刈り機を使用した除草にて省力化を図り、必要な貯留機能を確保している。令和6年度の最大貯留量は、11月2日豪雨の29,600m³（全体容量の約半分）。（県）

①-8 道路の適切な維持管理



弥生線や香西地区の側溝や暗渠等に堆積した土砂の撤去を実施。（市）

③-6 出前講座の実施



住民や生徒を対象とした防災講座の場において風水害を取り扱い、地域・自宅で想定される水害リスクや避難方法等を説明。（県・市）